

2003

夏号

6月～9月
プログラム

JAPAN

ELDERHOSTEL

Elderhostel — 世界を舞台に楽しく学ぶ大人の教室 —

エルダーの旅便り

発行 特定非営利活動法人エルダーホステル協会 〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24 piaNPO 404 TEL.06-4395-1222 FAX.06-4395-1225

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-23-13-5D TEL.03-5469-0681 FAX.03-5469-0682 http://www.elder.or.jp

日本の鬼考～鬼を語ることは、日本の原風景を、そして文化を語ること～



全国に広がる「鬼」の伝承

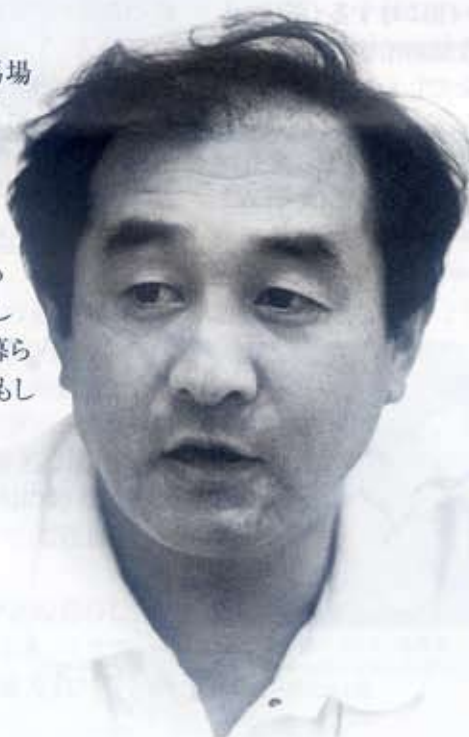
皆さんは「鬼」と聞いて何を思い浮かべますか。節分のとき外に追いやられる鬼でしょうか。また、桃太郎に退治された鬼ヶ島の鬼たちでしょうか。人間からみれば、追いやられ、退治されるものと、といった立場の鬼たちです

が、視点を変えて鬼の側からヒトを見るとどう映るのでしょうか。そして本来、鬼とはどういった存在だったのでしょうか。

わが国には、鬼にまつわる祭や芸能が少なくありません。「てーほへ、てほへ」のかけ声に合わせ、鬼の舞が夜を徹して続く「花祭」(国重要無形民俗文化財)は、奥三河地方の天竜川水系の山間集落に伝わる奇祭として広く知られています。いまでもこうした芸能や祭が、全国50数ヶ所で行なわれています。なぜこんなにも多くの鬼にまつわる祭事がとり行なわれているのでしょうか。ここ10年ほどの間に、鬼への注目はどんどん高まってきているのです。

鬼の復権

鬼の研究で知られる馬場あき子さんは、「鬼は近世に滅んだ」と解説しています。鬼は山に住んでいる山伏だったのかもしれない、マタギだったのかもしれない、そして、朝廷にしてみれば山深い東北に暮らす蝦夷は鬼だったのかもしれない。鬼のレッテルを剥がすことにより、



何が見えてくるのでしょうか。実は、鬼は死んでいないし、鬼は決して邪悪なものだけではありません。鬼とは、日本の原風景を、日本の文化を語る現代性のあるテーマなのです。特に、東北の人びとにとって、鬼は大きなテーマといえるでしょう。

なまはげ伝説と鬼

東北には古くから「なまはげ伝説」があります。

——その昔、漢の武帝が5匹の鬼を従えて男鹿に渡り、1日だけ鬼たちに自由を与えたところ、村人を散々苦しめました。困った村人は、鬼たちに

「娘を人身御供にするかわりに、夜明けの一番鳥が鳴く前に、村から五社堂まで千段の石段を築くこと」という条件を出しました。みるみる出来上がる石段に慌てた村人は、一番鳥の声を真似て夜明けを告げます。驚いた鬼たちは、その後二度と姿を現わしませんでした。

——というお話です。

秋田県下には、いまでも90の村になまはげ伝説が残されています。いずれも海岸沿いの村であり、山間部の村にはありません。実は、なまはげはもともと鬼ではなく、正月に海から来るお祝いの神だったのです。ところがいまでは、なまはげも鬼のなかに組み込まれています。

なまはげは、いつ、どんなふうになまはげになっていったのでしょうか。秋田講座で皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

今回、プログラムのなかで皆さんにご覧いただく「男鹿の於仁丸」は、なまはげ伝説をもとにつくられたミュージカルです。ホステラーの皆さまにも、きっとお楽しみいただけることでしょう。

(小向講師へのインタビューをもとに編集部が構成)

小向 鉄郎 Komukai Tetsuro

(財)日本民族芸術研究所 元理事長

劇団わらび座の芸術創造活動を通じて、日本人の暮らしと仕事に密着して生まれた民謡や民俗芸能の収集と研究を行なう。伝統芸能や民族学についての豊富な知識と平易な語り口で「秋田講座」の名物講師として人気が高い。

*7月の「秋田講座」(P13)では、近年、人気を集める「鬼」たちにも注目!